

2018-19年度 No 31 TOTAL 2594 令和1年6月7日	 <h1>券浦ロータリークラブ週報</h1> 			
R I 会長 : パリー・ラシン	国際ロータリー第2790地区	地区委員	勝浦ロータリー	クラブ会報
ガバナー : 橋岡久太郎	ガバナーノミニー : 漆原摂子	青少年交換 : 渡邊昌俊	会長 : 磯野武	山口桂亨
第6グループガバナー補佐 : 伊藤正人	地区補助金 : 吉田理愛	RYLA : 中村吉政	幹事 : 渡邊昌俊	中村吉政
			SAA : 中村満	佐久間淳宏
月間テーマ	ロータリー親睦活動月間			

会長挨拶

皆様こんにちは。昨日までは、季節を先取りしたような危険な暑さが日本列島を襲ってきましたが、今日からは、どうやら、梅雨入りのようです。天候の変化で私のように、体調を崩してしまうようなことのないように、お体ご自愛いただきしたいと思います。今月のロータリーテーマは 親睦活動 です。ロータリーでの親睦は奉仕の心を育てるような親睦活動を奨励しています。ロータリーの奉仕は、ちょっと意外に感じるかもしれませんが、個人奉仕が基本であることです。もうひとつ特徴的なことは永続的奉仕の禁止です。手を差し伸べるにあたっては援助に頼り、自助努力をしなくなることのマイナス面を考慮しましょうという事です。こうした考えがロータリアンに浸透するような親睦活動が理想であるという事なのだそう。少し頭の隅に入れて活動されてください。それでは本日もよろしくお祈りします。



幹事報告

- 2019年6月のロータリーレート 1ドル=110円
- 年次基金寄付のお願い。第2790地区、関東10地区中最下位脱出にむけて、寄付をお願いします。

ニコニコBOX

本人誕生日

磯野武君



大変ブルーな日々を過ごしてきましたが、やっと8割がた 歩けるようになりました。風邪は、万病のもとです。ゴールデンウィーク中、出かけて沢山歩き、遊んでいたところ風邪をこじらせてしまいました。私には、持病が2つありまして・・・一つは、スポーツ障害です。私は、年齢を重ねトレッキングをしたり、東京に行ったりしていると過剰骨が炎症をおこします。二つ目は、痛風です。痛風の発作が年に3~4回あるのですが、今回は併発して、だいぶ苦しみました。こうして歩けるようになると、喉元過ぎれば何とか・・・あと1ヶ月、皆様にご迷惑をかけないように、気を付けます。

渡邊昌俊君



52歳になりました。酵素ドリンクを朝・夕・晩に飲んでいただけで、食事はとっていません。全く大変ではありません。4kg痩せました。明日、明後日 リハビリで、おじやを食べて月曜日から普通に食事をとります。デトックスしていただければ効果が実感出来ると思います。6月26日からエステサロン「Toujours ierik」(レディース)がオープンします。メンズも秋～冬にはオープン予定となっております。6月25日迄のプレオープン期間中、当エステサロン無料体験できますので、皆さんも体験してみてください。

配偶者誕生日

齋藤麻美子君



主人は、65歳になりました。65歳になると、介護保険とか、年金の申請書類が届いたりして年寄り気分になってしまいますが、まだまだ、頑張ってもらわないといけません。

出席報告	次回例会	例会日	毎週 金曜日
会員数 42名	6/14 クラブ協議会	例会場	東急ハーヴェストクラブ勝浦
出席者 33名	6/21 クラブ協議会	事務局	勝浦市中島590-9 電話 0470-76-0199
MU 5名	6/28 夜間家族例会		勝浦市興津久保山台3-6 渡邊昌俊 方
欠席者 4名			電話・FAX 0470-62-6186
出席率 90%			http://www.katsuura-rc/index.html

卓話

久我守正君



ロータリーでお話するのは25年前にRYLAを体験しての報告以来の事です。自分の事を話しても間が持たないので、祖父の話をお話したいと思います。祖父の春吉については、私が中学1年生の時に亡くなっているので、小島先輩や鈴木亨先輩の方がリアルタイムで見ているので良く知っているかと思いますが、私が聞いた話をさせていただきます。久我春吉は明治22年6月5日、浜勝浦の漁師の家に三男として出生。長男とは17歳離れ、姉が7人、弟1人の9人兄弟です。家の跡継ぎになれないと思い、アメリカに密航を試みます。しかし、捕まり、勝浦に連れ戻されます。日露戦争後、日本が上り調子になっていた頃です。家にいても何するかわからないということで東京の久我源のところに丁稚奉公にだされました。久我源は渋谷で土木業、貸家業を営み羽振りが良かったそうです。当時は土地より家の方が価値があり、戦後は焼け野原になりほとんどの財産を無くしてしまったそうです。祖父は久我源に気に入られ、大金を貰い、沢倉に土地を買い、大正2年6月6日久我春吉商店として鯉節製造業開始。大戦中、食べ物に困る事無く、疎開に来た人を養っていたそうです。祖父は父と違いやんちゃな人で、おめかけさんが何人かいたそうです。お手伝いさんから聞いた話ですが、祖母と一緒にその家まで行ったが、顔を見ただけで帰ってきた事があったと言われました。鯉節や天日の肥料をやっていたので天気が大事です。天気予報が雨ですと、天気予報を晴れに変えろと気象庁に電話する事が何度もあったそうです。祖父には誰も逆らえなかったようで、私が小学校5年生迄PTA会長は祖父でした。大正8年、長女 久我てる出生、その17年後昭和10年、父 久我守平出生。40歳過ぎの子供で待望の男の子。大事に育てられたそうです。子守が常に2人付き、拾った子は育つ というので、一度橋の下に捨て誰かに拾ってもらおうという儀式を行ったそうです。父は私より身長が10cm位高く、確かに大きく育ちました。父が幼少の為、長女 久我てるが婿をもらいました。叔父は士官学校を出ているので戦争にとられますが、無事帰国。戦後は勝浦で製粉業、国吉で製麺業を始めます。父は一橋大学に入りたかったようですが、立教大学に入学。当時の立教大学は、大沢親分、本屋敷、杉浦忠、そして長嶋茂雄が活躍、物凄い熱狂につつまれていました。当時はプロ野球よりも6大学野球の方が人気があったそうです。大学卒業時、大学院に残れと言われて日本銀行、東芝の内定をもらっていたのですが、「よそで働かせる為に育てたのではない」の祖父 春吉の一言で勝浦に帰されたそうです。勝浦に帰ると、叔父は勝浦から追い出され叔母テルと、祖父が久我源から貰った渋谷の土地で産業廃棄物の事業を始めます。当時、勝浦では化学肥料におされ需要が減り、父は肥料の営業で東京方面に出かける事が多く、その時にロータリークラブ、青年会議所を知るようになったと聞いています。勝浦ロータリークラブが誕生した昭和38年に私も生まれ、私も長男として生まれた為、大事に育てられました。やっはいけない事3つ、教訓として体験します。1つ目、赤ちゃんを寝かせる時、片側ばかりに寝かせてはいけない事。私の頭は右側がへこんでいます。2つ目、真綿で包み込むようにしない事。夏でも少し涼しくなると長袖長ズボンだったそうです。3歳の時、東京に出かけた際、喘息から肺炎になりました。その時から病弱になり、春と秋の季節の変わり目は入院生活でした。保育所の谷津遊園への卒業遠足に行けず、卒業写真はお約束の右上に丸く囲まれた写真となっています。3つ目は、歯磨きは子供任せにしない事。きちんと磨けません。歯医者さんは、痛かった。歯茎に麻酔、ペンチでえぐるように歯を抜く。歯医者は恐怖でしかなく、子供達にはそんな目には合わせたくなかった。お風呂に入れる時は、必ず後ろからきちんと歯磨きをしてあげました。おかげで子供達は虫歯を知りません。小学校に入学しても病弱は治らず、半分近く学校に行っていなかったように記憶しています。小学校の出来事で強く記憶に残っているのは、3、4年生の頃、通知表をもらった時、先生から音楽の3は、2に近い3です と念を押された事です。ペーパーテストは出来たけれど、実技はダメ と言ったかったのでしょう。カラオケで歌うのは本当に苦手です。人が歌うのを聞くのは大好きなのでカラオケに行くのは楽しいです。小学校時代は体育もダメでした。マラソン大会も、毎年最下位でした。中学に入ると一変します。親からは反対されましたが、バスケットボール部に入部します。新入部員は24人。1年生はほとんどボールを触らせてもらえず、勝浦中の表坂をダッシュ、手押し車、馬跳び、うさぎ跳び ばかり。何とかやめる事無く、ついていったので、ほとんど病気にせず過ごせました。中学校のマラソン大会は、3年生の時、3位に入る事が出来ました。部活は3軍で、3年生の時、3分位出してもらえました。その時は腹も割れていて、体だけはあの頃に戻りたいです。高校では、「エースをねえ」に影響されてテニス部に入ろうとしました。しかし硬式が無く、中学でテニス部でない者はいれないと言われ、諦めました。それで入ったのが映画研究部です。女子部員はピカイチの子が2人おり、とても楽しかったです。1年浪人し、成蹊大学法学部政治学科に入学。念願の硬式テニス部では無く、テニス&スキーの同好会に入部。時代はテニスラケットを持って出歩くのがお洒落な時代です。そして、一気飲みも流行っていました。コンパや合宿はみんな酔いつぶれるので、寝下呂が喉に詰まらないように、先輩から最初に教わりました。1年生の終わりに自分達で新しくテニス&スキーのサークルを作ってしまった。その為、土日はバイト、平日はテニスの毎日です。授業はほとんど出た記憶が無いです。語学とゼミ以外、あの頃の学生は本当に勉強しなかったと思います。バブルで絶好調の頃なので就職するのに苦労してなかったように思います。卒業後、西原ネオ工業という浄化槽のメーカーに3年半努めました。中学の時から、バイトで穴掘りしたり、工事現場で働いていたので仕事の内容は大体分かっていたのですが、知らない設計事務所に営業に行かされるのはかなり苦手でした。現場に出ているほうが楽です。基本はハウスメーカーへの営業でした。担当は、旭化成、積水ハウス、ダイワハウス等です。平成元年の積水ハウスの会議に出席した時、今年は昨年の受注残が多くあるが、確実に減っており、バブルは終わると言われました。しかし、勝浦はバブルの絶好調。平成2年、父から仕事が多く、忙しいから帰って来いと言われ、帰ってきました。東京ではこの好景気が終わると言われていると父に言いましたが、聞く耳を持ちません。勝浦はリゾートマンション建設ラッシュ。ほとんどのマンション浄化槽工事に関わっていました。マンション工事の中断、マンション計画の中止で勝浦のバブルも終わりました。その頃、青年会議所で知り合った一つ年上の妻と結婚しました。